新宗連スローガン
信教の自由を守ろう
信仰心を広めよう
宗教協力を進めよう
世界の平和に貢献しよう

新宗教新聞

2019年（平成31年）
2月27日
第1111号

発行所
新日本宗教団体連合会
（略称 新宗連）
〒151-0053
東京都渋谷区代々木5丁目57番10号
電話（03）3468－5551（代表）
（03）3468－5588（編集）
大阪事務所 〒550-0006
大阪市西区江之子島1丁目8番21号111
電話（06）6443－7178

第30期第3回 理事会

―新　宗　連―

事業計画・予算を承認

全国で「教化活動懇談会」開催へ

新日本宗教団体連合会（新宗連、岡田光央理事長）は2月19日午後2時から、東京・四谷の解脱会本部道場で第30期第3回理事会を開催した。審議事項では平成31年度事業計画案・予算案などを原案通り承認。全国総支部・協議会の事業として新たに「教化活動懇談会」が展開されることとなる。また「平成30年7月豪雨」に対し、7月に愛媛県松山市で「西日本豪雨犠牲者の追悼と鎮魂並びに復興合同祈願式」を世界宗教者平和会議日本委員会（WCRP日本委、植松誠理事長）との共催で開催することも決定した。

理事会は、受け入れ教団を代表して解脱会の岡野英夫理事長のあいさつの後、報告事項に移った。昨年12月20日に行われた内閣府立入検査については、内閣府の担当者から新宗連の諸活動について「大きな問題はないので、これからも公益活動の増進に努めていただきたい」との総括があったことなどを報告。

委員会・機関の前回理事会以降の活動や総支部・協議会における平和学習会の開催状況などを報告した後、新日本宗教青年会連盟（新宗連青年会、宮口弘道委員長）の今年度の活動及び今後の活動予定などを報告した。

「平成30年7月豪雨」に際し、WCRP日本委と新宗連青年会が昨年8月から協働で被災地にボランティアを派遣するなど、今年7月頃までを目途に支援活動を継続していることから、7月10日に愛媛県松山市で開催する「西日本豪雨犠牲者の追悼と鎮魂並びに復興合同祈願式」を、新宗連とWCRP日本委の共催で開催することを決定した。

審議事項に移り、平成31年度事業計画案及び予算案については一括して審議を行い、原案通り承認した。平成31年度の計画では、過去5回にわたり行った「新生復興祈念集会」の報告書作成や「第31回教団人セミナー」「第30回人権啓発基礎講座」「拡大宗教法人研究会」などの開催、新たに「教化活動懇談会」の全国総支部・協議会での開催、新宗連青年会による第54回「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典（8・14式典）」「ユースフォーラム2019」の開催や「第27次アジア青年平和使節団」派遣などを実施する。

このほか定款の変更、規程の改定なども承認した。

理事会では、御木貴日止常務理事が体調不良のためやむなく退任することが報告され、岡田光央理事長が御木常務理事の早期回復と役員復帰の祈願を呼びかけ、参加者全員で祈りを捧げた。

最後に昨年10月17日の理事会に引き続き、理事らが新宗連活動について意見交換。特に宗教の在り方について、各理事が意見を表明し、それぞれの考えを深め合った。

東京・四谷の解脱会本部道場を会場に開催した理事会

2019年 展望

変動する社会の動向と課題

プラごみ対策 急務に

海洋汚染防止へ、官民で新たな動き

環境問題

環境問題において、マイクロプラスチック（「栞」参照）による海洋汚染が深刻化し、有害物質を取り込んだ魚などを通して人体に影響を及ぼすことが懸念され、プラスチックごみの削減など世界的な対応が急務となってきた。

今年6月下旬、大阪市で開催される「G20サミット（金融・世界経済に関する首脳会合）」では、日本政府からプラスチックごみによる海洋汚染に取り組むことを各国に義務付ける「実施枠組み」が提案される方針で、G20の大きな課題の一つになるとみられている。

また、環境省は今年1月19日、世界的な海洋プラスチック問題の解決へ向け、「プラスチック・スマート」キャンペーンを立ち上げ、個人や自治体、NGO、企業、研究機関などが連携・共働し取り組むことを進めている。

環境省のホームページのキャンペーンサイトでは、海岸でのプラごみを拾うクリーン作戦から、リサイクルしセメント原燃料への活用、使用済み印刷カートリッジの共同回収などの取り組み例が紹介され、個人や団体がキャンペーンに参加することを推奨している。

また、政府は今年2月8日の閣議で環境に配慮した物品調達を義務付ける「環境物品等の調達に関する基本方針」を閣議決定した。

国及び独立行政法人などの物品調達に関するこの方針では、インテリアのカーテンやカーペットの素材から、食堂での使い捨てプラスチック製の皿やコップ、ストローの不使用、省庁内のコンビニエンスストアでのレジ袋は環境に配慮したものへと変更を求めるなど、21分野276品目について基準を定めた。

Plastics Smart
「プラスチック・スマート」キャンペーンのロゴマーク

さらに環境省の中央環境審議会は昨年来、レジ袋の有料化へ向けた具体案作成を進めており、同省は2030年までにレジ袋を含むプラスチック製容器包装の6割リサイクル、35年までにすべての使用済みプラスチックの有効利用へ向け産業界などに協力を求める考えで、飲食業界ではその対応が始まっている。官民挙げてのプラスチック削減対策は確実に進められるようだ。

宗教界の取り組み

環境問題の取り組みは、宗教界では実践だけでなく、その理念も問われてくる。WCRP日本委の特別事業部会・気候変動タスクフォースは2月12日午後3時から、東京・杉並の立正佼成会大聖ホールで「2019年気候変動学習会」を開催した。学習会は、植林活動や青少年への環境教育などで地球温暖化問題に取り組んでいる同タスクフォースが環境問題を仏教思想でとらえ直し、学びを深めようとの趣旨。

東洋大学教授の竹村牧男氏が「環境問題と仏教思想」のテーマのもと、講演を行った。竹村氏は専門の仏教学・宗教哲学の見地から、仏教における自然観や環境観をつぶさに解説した。

その中で天台教学の「草木国土悉皆成仏」の教えから、「ことさらに自然世界を傷つけたり損ねたりすることは慎んでいこう、むしろ環境世界そのものを仏として拝み、大切にしていこうという根本的な姿勢が築かれるのではないか」と説明。環境問題に取り組むための、仏教の基本的な視座を示した。

新宗連は結成50周年の将来構想計画の一つとして、地球環境保全運動の推進を掲げ、2004（平成16）年から、07（同19）年まで3次にわたりCO_2削減のため電気使用量を削減する「電力ダイエット運動」を全国で展開した。

同運動終了後もいくつかの協議会で、今日までリサイクル運動や清掃奉仕、施設見学会など、さまざまな環境問題への取り組みが進められているが、プラスチックごみによる海洋汚染への具体的対応も、今後の課題の一つとなってくるようだ。

WCRP日本委の気候変動学習会

―家族会・救う会―

拉致被害者の帰国を

金正恩委員長へのメッセージを手交

家族会・救う会の代表ら6氏が首相と面会
（写真／政府・拉致問題対策本部HPより）

北朝鮮による拉致被害者家族連絡会（家族会、飯塚繁雄代表）と北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会（救う会、西岡力会長）の代表らは2月19日午後2時50分、東京都千代田区の首相官邸で安倍晋三首相と面会し、今後の運動方針と、北朝鮮の金正恩委員長に拉致被害者の即時一括帰国を求めるメッセージを手交した。家族会・救う会の代表はメッセージの内容とその思いを安倍首相に訴えた。家族会・救う会が金委員長宛てにメッセージを発信することは初めてのこと。

首相官邸を訪れたのは、家族会の飯塚繁雄代表と横田早紀江さん、横田拓哉事務局長、横田哲也事務局次長、有本明弘さん、救う会の西岡力会長の6人。家族会と救う会が前日に決定した、金委員長宛てメッセージ「全拉致被害者の即時一括帰国を決断していただきたい」では、冒頭で「私たちの活動の目的はただ一つ、全拉致被害者の帰国です」「愛する肉親に数十年も会えず、ひたすら帰りを待ち続けている親兄弟の張り裂けるような胸の内をぜひご想像ください」と訴えている。

さらに、昨年6月の米朝首脳会談で金委員長はアメリカのドナルド・トランプ大統領を通じて安倍首相の拉致問題に関するメッセージを聞いているはず、また安倍首相が今年1月の施政方針演説で拉致問題の解決に金委員長と直接向き合い、果敢に行動すると述べたことを記している。

そして全被害者の即時一括帰国が実現するのであれば、家族会・救う会とも拉致被害者から秘密を聞き出し国交正常化に反対する意思はないこと、拉致被害者と静かな日常生活を送ることを切望していることなどを述べ、金委員長に「全拉致被害者の即時一括帰国を決断していただきたい」と訴えている。

面会では、安倍首相が、日米の電話首脳会談の際に家族会・救う会の思いをトランプ大統領に伝え、さらにトランプ大統領から金委員長に伝えるように働きかけると話した。首相は「皆様の思いを受けて、あらゆるチャンスを逃がさないとの考えの上に、この問題を解決に向けて取り組んでいきたい」と述べた。

面会を終えて飯塚代表は「新宗連では一昨年来、全国で拉致問題に関する学習会を開催させていただいた。私たちの目的は全拉致被害者の帰国だけです。今後も拉致問題の解決へ向け、理解と関心を持っていただき、ご協力をお願いしたい」と語った。

滴々抄

心魂の蘇りを計るべき時

子どもの虐待、苛めの問題に思う

昨今、世の中を騒がせている、誰もが憤りを感ぜずにはいられない子どもたちの虐待をはじめ、学校における苛めの問題等々、心の痛む事件が後を絶たず、何たる事でしょうか。

動物でさえ、我が子を命懸けで守るというのに、当然に子どもを守るべき親が抵抗のでき得ぬ子を死に追いやる。または保護すべき役目を担うはずの人たちの判断の誤り、否、責任の無さに依り引き起こされる悲惨な結果、さらに生徒を守り指導教育すべき教師までもが苛めに加担等々。挙句の果てに自殺に追い込む、追い込まれる。実に嘆かわしい。

呆れ果てる事件の数々、子どもたちの問題に限らず、各分野で常軌を逸する、理不尽なる問題の如何に多い事か。カスハラ（カスタマーハラスメント）等という事をも含めて不安を募らせる。

加えて国の命運を預かる政治家に至るまで、不祥事の数々。鑑みるに全般に実に真面とは言い難し。漫然と見過ごしていられるものではない。各人が認識して対処策を講じ置く事も、危険回避に繋がる。

それにつけても道徳教育、心の教育、精神の修養、人づくりが急務ではないでしょうか。

先祖代々受け継がれてきたる日の出づる国の、世界に誇れる輝かしい精神文化の継承に力を注ぎ、何事にも変え難い心の財産をしっかりと残しゆく可く、私たち信仰者が、一丸となって力を振り絞り、失われゆく心魂の蘇りを計るための修養、学びの場と機会の提供、心の指導に心血を注ぎ、改善を計るべき時ではないでしょうか。

微力ながら、人づくりの真の担い手の一助となるべく努め上げゆかねばと、心に固く誓うこの頃でございます。

（保積敬子・大和教教祖）

宗教をめぐるさまざまな問題のご相談窓口
宗教もしもし相談室
03 3466-9900
受付●月曜→金曜／正午→午後4時
公益財団法人 新日本宗教団体連合会

栞（しおり）　マイクロプラスチック

その名の通り「小さなプラスチック」。環境問題においては、海洋中にあるゴミのプラスチック素材が壊れ、細かい粒子となったものを指す。マイクロプラスチックは、その小ささのために、魚などの海洋生物が付着した有害物質などと一緒に体内に取り込んでしまい、それを食する海鳥や人間の健康に影響を及ぼすことが懸念されている。具体的な影響は検証中ではあるが、国内外ではストローを紙や木材で作成し発生量を抑制、また回収することなどで、プラスチックごみを減らす取り組みが始まっている。（1面）

解脱会伝記編纂委員会編
新版 解脱金剛伝 全3巻
A5判 上製函装 定価3000円（税込み）
世相善導、人心救済への道筋を説かれた解脱会金剛（岡野聖憲）の生涯を全1549頁、3巻に収めた。会祖亡き後、その人格に触れて自らの内に深い帰依心を培い、世のため人のために生きるための学びの土台となる書。第1巻＝生誕から事業の失敗、大成を経て宗教の世界に目覚めていく前半生を描く。第2巻＝昭和4年に立教して以来、人心救済の道一筋に生き、教えの土台を完成するまでの事績を辿る。第3巻＝戦時下の厳しい時代の中で縦横無尽に教えを説き、救済活動を展開し、遷化されるまでの歩みを記す。
解脱会
〒160-0007 東京都新宿区荒木町4番地
TEL 03-3353-2191（代表）Fax 03-3353-3055

清文社
宗教法人の税務調査対応ハンドブック〔宗教法人税制と法制の解説を含めて〕
石村耕治 編
A5判3780円
平成25年からの新・税務調査手続にも対応！
宗教法人と税務調査についての基礎知識を中心に整理し、コンパクトに解説した、実務家・宗教関係者必携の一冊。
公益財団法人 日本宗教連盟推薦！
〒101-0047 千代田区内神田1-6-6
☎03（6273）7946 FAX03（3518）0299
http://www.skattsei.co.jp〈価格税込〉

芸術生活社【芸生文庫】
高齢期を快く生きるための“人生の道しるべ”
老春誣歌（ろうしゅんおうか） 長生きの秘訣
御木徳近著
パーフェクト リバティー教団第二代教祖が、宗教家として悟りと長い人生経験、多くの人との出会いから、高齢期を心豊かに暮らすための新しい生き方を提唱する。■定価700円（税込）
〒150-0047東京都渋谷区神山町16-1
電話03-3469-1153 FAX03-3465-6867

南雲堂
美容と健康寿命の秘策！
認知症予防★お口の体操
『みんな笑顔、みんな元気！』DVD
監修・作詞：太田哲二 作曲：森重恭典／歌・実演：恵中瞳
（体操解説・歌詞収録のブックレット付）
定価（本体2000円＋税）
●収録内容（歌と体操の実演）
■アッカンベー体操／舌の動きや首を回して、筋肉を活性化させて、リンパの流れを良くする。■パタカラ体操／魔法の言葉『パ・タ・カ・ラ』を使って口を大きく動かして脳に刺激を与え、認知症予防！■ラップ・ラップ体操／早口言葉や落語の寿限無をラップのメロディにのせて歌うことで手・眼・口・全身の運動機能を向上させる。
〒162-0801 東京都新宿区山吹町361
☎03-3268-2311 FAX 03-3260-5425
http://www.nanun-do.co.jp/

佼成出版社
「宗教者の役割」「信仰の本質」を問う異色の評伝
〈大逆事件〉と禅僧内山愚童の抵抗
眞田芳憲
四六判／240頁 本体2000円＋税
日本近代史における最大の思想弾圧「大逆事件」に連座し、刑死した禅僧・内山愚童（1874～1911年。社会主義者、無政府主義者としてこれまで語られがちであった愚童の思想と行動を、本書は仏教者としての側面から仔細に検証。その知られざる実像を明らかにする。
〒166-8535 東京都杉並区和田2-7-1
☎03(5385)2323 FAX03(5385)2334
http://www.kosei-shuppan.co.jp/

白馬社
合掌ができない子どもたち
浄土真宗本願寺派福賢寺住職 三上章道
四六判 定価1260円
「本願寺新報」の編集長を二十年に亘って務めてきた著者が、合掌ができない子どもたちとの出会いを契機に、戦後の日本社会が戦慄すべき「薄縁社会」となったプロセスを追い、その原因が宗教心の喪失にあることを解き明かす。そして新たに現出した「原発問題」にも、同根の原因があることを洞察していく。日本人の心の問題にするどく迫り、根本的解決への提言をまとめた必読書。
〒612-8469 京都市伏見区中島河原田町28-106
TEL 075(611)7855 FAX 075(603)6752
http://www.hakubasha.co.jp 価格税込

ハーベスト社
「世界救世教」に関する初めての本格的研究
療術から宗教へ
世界救世教の教団組織論的研究 隈元正樹著 本体価格3000円＋税
浄霊と称する療術で、第二次世界大戦以後に教勢を伸ばした世界救世教を事例として、呪的宗教の組織化を中心とした教団統合の問題を明らかにする。
近現代日本の宗教変動 実証的宗教社会学の視座から
寺田喜朗・塚田穂高・川又俊則・小島伸之編著 本体価格3800円＋税
西東京市向台町2-11-5
Fax042-467-8661 TEL042-467-6441

緊急出版 カトリック大阪教区神父 西山俊彦
平和憲法が平和への道、改憲は戦争への道
―わたしたちが核戦争の加害者とならないために―
世が平和ボケにあろうとも、一時すでに遅しと後悔しないために、平和憲法の真価を見直す素養まで捨てるわけにはいかない。
●1400円＋税 四六判並製
248頁 ISBN 978-4-286-19691-6
文芸社
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1
☎03-5369-2299 FAX.03-5369-3066
https://www.bungeisha.co.jp
書籍のご注文はお近くの書店またはブックサービス☎0120-29-9625、ネット書店まで

西日本豪雨 被災地支援

7月に復興合同祈願式

新宗連とWCRP日本委が共催で実施

「平成30年7月豪雨」（西日本豪雨）に際し、新日本宗教青年会連盟（新宗連青年会）、宮口弘道委員長）は世界宗教者平和会議日本委員会（WCRP日本委、植松誠理事長）と協働し、VOWS（バウズ、Volunteers of WCRP&SYL）として被災地の支援活動を昨年7月から継続している。昨年12月からは西予市で地元の宗教者らと連携し、被災者の「心のケア」にあたる傾聴ボランティア活動も行っている。

この西日本豪雨の被災地支援について、WCRP日本委は2月14日午後1時半から、愛媛県松山市で西日本豪雨復興タスクフォースの第2回会合を開催。新宗連もオブザーバーとして参加した。被災の状況や同タスクフォースの支援の報告、予算などの審議を行った後、「西日本豪雨犠牲者の追悼と鎮魂ならびに復興合同祈願式」について協議。7月10日に愛媛県西予市野村町の宗教施設で式典を行うことを決定した。

この決定を受け、同タスクフォース運営委員として参加している善隣教教主の力久道臣氏（新宗連理事）は2月19日の新宗連理事会で同祈願式を提案、承認され、新宗連とWCRPの共催で行うこととなった。

▲愛媛県松山市で開かれたタスクフォース
◀支援の一つである傾聴ボランティア

平和学習会―和歌山と愛知で開催

新宗連が全国の総支部・協議会で開催している「憲法改正と国民投票」をテーマとする平和学習会。

1月26日から2月25日までは、和歌山県協議会（2月10日、和歌山市、講師＝山田匡男新宗連総局長）、愛知県協議会（2月12日、名古屋市、講師＝山田総局長）が開催した。

第36回 庭野平和賞

ノートルダム大学名誉教授 ジョン・ポール・レデラック氏に

「紛争の変革」理論を提唱、調停・和解を推進

庭野平和財団（庭野日鑛名誉会長、庭野浩士理事長）は2月18日、京都市内のホテルで記者会見を行い、「第36回庭野平和賞」を米国ノートルダム大学名誉教授のジョン・ポール・レデラック氏（63）―写真―に贈呈することを発表した。庭野平和賞は、宗教的精神に基づく世界平和の推進に顕著な個人や団体に贈られるもの。

レデラック氏はメノナイト（キリスト教再洗礼派の一つ）の信仰を基に30年以上の長きにわたり、世界各地で紛争の調停、平和構築、国際的和解の促進に関わってきた。紛争を解決しやめさせるのではなく、紛争自体の価値を変容し、当事者同士の相互理解の上に立った心からの和解に導く「紛争の変革」理論を提唱し、同理論による訓練を開発・発展させてきた。

1986年からニカラグアやソマリア、北アイルランド、コロンビア、ネパール、フィリピンなどの紛争地域に自ら赴き、政府や反政府勢力と協議を重ね、命の危険にさらされながらも、理論に基づく紛争調停や和解プログラムを推進してきた。同プログラムは数百に及び、実施国は36カ国にのぼる。

また、レデラック氏はノートルダム大学やイースタン・メノナイト大学で平和構築の手法を伝える授業を長年行い、未来の平和活動家の育成をするとともに、平和教育や平和構築に関する研究書やノウハウ本を数多く執筆し、それらの翻訳は16の言語に及んでいる。

レデラック氏は現在、米国の慈善団体ヒューマニティ・ユナイテッドの上席研究員も務めている。

贈呈式は5月8日、東京都港区の国際文化会館で挙行され、賞状と顕彰メダル、副賞（賞金）が贈られる。また受賞者による記念講演も行われる。

受諾メッセージ

本当の癒しをもたらす絆創る大きな励ましに

今回の平和賞発表を受け、レデラック氏は受諾メッセージの中で、愛と慈悲の実践に根差した自身の信仰、生き方を振り返るとともに、今日、世界で恐れから頻発する憎悪を元にした排他的政治の台頭に危機感を表し、愛だけが恐怖を変革することができ、共通した人間性への気付きこそ格差を埋めるための創造性と勇気を解き放てることを訴えている。

そして平和賞受賞について「私たちの愛する地球家族が憎しみ、分裂、排除を超えて、本当の癒しをもたらす絆を創るための大きな励ましを与えてくださいます」と記している。

第27回理事会・第17回評議員会議案説明会

第10回世界大会へ向けて準備進める

WCRP日本委

WCRP日本委は1月29日午前10時半から、東京・杉並の立正佼成会法輪閣で「第27回理事会・第17回評議員会議案説明会」を開催した。

審議事項では、WCRP日本委人事と2018年度補正予算、2019年度事業方針と事業計画、同年度予算などを承認したほか、「第10回WCRP世界大会」開催について概要と日程が発表された。

第10回WCRP世界大会は8月20から23日まで、ドイツのリンダウの国際会議場で開かれる。大会テーマは「Caring for Our Common Future（和訳＝慈しみの実践―共通の未来のために）」。サブテーマとして、Ⓐ共通の未来のために積極的平和を促進する、Ⓑ共通の未来のために戦争やテロ等の紛争を予防し解決する、Ⓒ共通の未来のために公正で調和のある社会を促進する、Ⓓ共通の未来のために持続可能な総合的人間開発のために行動する、Ⓔ共通の未来のために地球を守る―の5項目が設けられた。

参加者枠は全体で正式代表と国際役員、国際トラスティ、女性・青年・地域の各代表ら900人で、日本からはWCRP国際委員会の庭野日鑛名誉会長と庭野光祥共同議長、杉谷義純国際軍縮安全保障常設委員会委員長、また国際トラスティの宮本惠司氏と川端健之氏の5氏が参加する。理事会ではWCRP日本委からの参加者選出方法について承認した。

世界大会開催にあたり、ドイツ政府が協力しており、地域ごとに準備会議を要請していることから、3月5から7日までミャンマー・ヤンゴンでアジア準備会議が開催される。

承認事項では6月28、29日に大阪市で開催される「G20サミット（金融・世界経済に関する首脳会合）」に先立ち、6月11、12日に京都市内での「G20諸宗教フォーラム2019」開催も承認した。

同フォーラムでは地域格差による貧困問題や気候変動の悪化、核兵器禁止条約やSDGs（持続可能な開発目標）などに関する国際条約、AIや電子通貨などの科学技術、高齢化対策といった項目に焦点をあて、日本と世界の宗教者、専門家が共に考え、その成果を発信していく予定。

また報告事項では、特別事業部門の六つのタスクフォース（核兵器禁止条約批准・気候変動・和解の教育・難民問題・東日本大震災復興・西日本豪雨復興）から活動報告と今後の予定について説明があった。

死刑・再審制度を考える講演と公開シンポジウム

来月、京都と東京で開催

死刑・再審制度をめぐり来月、日本弁護士連合会（日弁連、菊地裕太郎会長）や地域の弁護士会が主催する講演、公開シンポジウムが相次いで開催される。

3月2日午前10時10分から午後5時半まで、京都市の龍谷大学響都ホールで公開シンポジウム「死刑、いま命にどう向き合うか―京都コングレス2020に向けて」が開催される。主催は日弁連と京都弁護士会。

同シンポは、来年4月に京都で第14回国連犯罪防止刑事司法会議（京都コングレス2020）が開催されることから、死刑制度廃止を目指している日弁連が同問題について広くアピールしようと企画したもの。

シンポでは午前に法廷サスペンス映画『三度目の殺人』（2017年公開、監督＝是枝裕和、主演＝福山雅治）を上映。午後には基調報告「京都コングレス2020―日弁連が目指すもの」などの後、ゲストスピーチとして、キリスト教ローマカトリック教会枢機卿の前田万葉氏が「カトリックから見た死刑」のテーマで報告を行う。

また午後には「対テロ戦争における命」をテーマに、安田純平氏と堀川惠子氏の二人のジャーナリストがゲスト・聞き手となり対談。ドイツ人ジャーナリストのヘルムート・オルトナー氏が「国家が人を殺すとき、死刑を廃止する理由」をテーマに講演するほか、パネルディスカッションも行われる。

シンポは入場無料、事前申し込み不要。問い合わせは日弁連法制部第2課（電話03―3580―9985）、京都弁護士会（電話075―231―2337）。

再審請求中の死刑確定者の刑執行を問う

3月13日午後5時から8時まで、東京・千代田区の弁護士会館で講演とシンポ「死刑執行による再審制度の瓦解を問う」が開催される。主催は第二東京弁護士会、共済は日弁連と東京弁護士会、第一東京弁護士会。

同企画は、昨年7月と12月に15人の死刑執行が行われたが、その中に再審請求中である死刑確定者もいたことを受け、刑罰制度の改革や死刑執行までの刑事手続き段階での適正かつ十分な弁護権などを考えるもの。

テーマに沿い、弁護士の伊達俊二氏が講演。パネリストは作家の江川紹子氏と弁護士で専修大学大学院教授の加藤克佳氏、九州大学教授の豊崎七絵氏。

参加費無料。問い合わせは第二東京弁護士会人事課（電話03―3581―2257　http://niben.jp/）。

【諸会議　報告】

理事会に向け平成31年度予算案について協議

会計委

新宗連会計委員会（中村憲一郎委員長）は1月28日午後2時から、東京・代々木の新宗連会館で第30期第3回会計委員会を開催した。

1月17日の事業計画策定会議で検討された「平成31年度事業計画案」の説明があり、同計画案に基づき、予算案について協議。2月19日開催の理事会へ提出する予算原案を作成した。

開教81周年記念式典―

さらなる広宣流布誓う

思親会

飯島会長の「御親教」でスライドを用いて教えを説く

思親会（飯島法道会長）は2月11日午前11時から、神奈川県伊勢原市の思親大宮殿・大孝堂で「開教81周年記念式典」を開催した。

第1部は開教81周年を記念する映像の放映、献灯献供の後、飯島法道会長を導師に「ご供養」を行った。

午後から第2部が行われた。会員代表法話では、井戸清行開祖の「御遺訓」を読み、開祖の歩んだ道を手本に歩んできたことが話され、欲得なく人を救うこと、初心を忘れず精進していくことなどが誓われた。

続いて、飯島会長が登壇し「御親教」。思親会の所依の経典である法華三部経には「因果の法則」が書かれていると説き、現在起こっている現象は、過去世（前世）やこれまでの行い、先祖の行いなどを原因として起こると指摘。また、阿頼耶識（無意識）にある先祖の念や過去世での悔い、両親の思いなどが日々の行動を規定し、現象を起こしているとも説明。そして病気などの苦しみ（結果）は法華経の読誦や実践によって自らの心（原因）を正し、過去を懺悔、浄化する機会であると説いた。

日々の読経の際の心構えとして、経巻を開いたときに、諸仏・諸菩薩らが一緒にいると意識する必要があるとし、「正しい教えを正しく行ずれば、正しい証が出る」と力強く訴えた。

そして法華経嘱累品の「今以て汝等に付嘱す。汝等應當に一心に此の法を流布して、廣く増益せしむべし」を引用し、法華経の広宣流布を釈迦から託されたと解説し、さらなる法華経の実践、布教を呼びかけた。

この後、会員代表が「誓願」。今年の信行目標が昨年に引き続き、3年連続「慈観」となったことに触れ、3年も変化がないのは「慈観」を実践することができていなかったとの自身の反省を述べ、今一度、会員全員で「慈観」の実践を行うことを呼びかけた。

最後に司会の先導で嘱累品の一節を全員で唱和し、さらなる広宣流布を誓い合った。

―立教68年祭―

立教の本懐 噛み締め

妙道会教団

佐原会長による教会役員への委嘱の儀

妙道会教団（佐原慶治会長）は立春を迎えた2月4日午前10時半から、大阪市天王寺区の大聖堂で「立教68年祭」を厳修した。

祭典は修祓に続いて、女子部員が「み灯」を捧げた後、導師入場。佐原慶治会長が登壇し、祭文を奏上した。立教の原点、「両聖師さま」と仰ぐ教団を開創した佐原忠次郎師と佐原俊江初代会長、先達導師の足跡に思いを馳せ、感謝を込めて読経を行った後、導師位授与、教会役員委嘱の儀を迎え、代表に佐原会長から委嘱状が手渡された。

堂内が暗転し、静想の時を迎え、次いで佐原会長が「ご教示」に立ち、日蓮聖人の『報恩抄』の一節を引きながら教団開創者が大切にした「時」に触れ「激動の時代こそ、法華経に根ざした生き方を貫くことが大切です」と説いた。

聖訓・三大誓願を奉唱し、会歌斉唱をもって閉式した。この日、参拝者には招福餅とご神酒が、また導師会員には記念の「おうどん」が手渡され、立教記念日を寿ぐとともに、決定も新たに「両聖師さま立教の本懐」を噛み締めた。

第80回 太陽精神碑建立記念祭―

立教百年へ向け歓喜大躍進を

解脱会

解脱会（本部＝東京・四谷、岡野英祥法主）は2月11日午前10時から、埼玉県北本市の太陽精神碑前と御霊地で「第80回太陽精神碑建立記念祭」を執行した。

太陽精神碑は、岡野聖憲会祖（解脱金剛尊者）が1940（昭和15）年2月11日、地上の万物を平等に育み、与えて求めぬ太陽の心、無私大愛の精神を表象するものとして建立した。記念祭は教団の「六大行事」の最初の行事として、毎年建国記念の日に執り行われ、今回で第80回を迎えた。

第1部「太陽精神碑前之儀」が行われ、岡野英夫理事長が「奉告文」を奏上、参列者一同で拝礼行事を行った。

この後、御霊地で第2部「太陽精神碑建立記念祭式典」が開式。拝礼に続き、国歌と「太陽精神碑の歌」を斉唱。岡野会祖の「み声」（録音）を拝聴した。

岡野理事長が「岡野聖憲師頌徳碑」の前に立ち、「請願文」を奏上。記念祭を迎えた喜びを述べた後、環境問題や地域紛争、自然災害など混迷する社会を憂い、こうした時代だからこそ、与えて求めぬ太陽の心、人心救済、思いやりに生きることに邁進すること、その大理想に向け実践行の第一歩を進めることが大切であるとした。

岡野理事長が参列者に向かい「式辞」

そして太陽精神碑から発せられる会祖の「無言の大雄弁」を感得し、その御教えを宣布し、日本の繁栄と世界平和に貢献し、「来る立教百年へ向け、歓喜大躍進することを全国会員と共にお誓いします」と力強く述べた。

拝礼行事の後、岡野理事長が特設ステージに登壇し、「式辞」を述べた。太陽精神碑建立に込められた会祖の「御心」を「ご聖訓」の言葉を引きつつ、あらためて説明し、記念祭を迎え、会祖の思い、建国の原点を子々孫々まで引き継ぎ、祖先の歩みへの感謝を捧げることの大切さを説いた。

昨年の立教90年を経て、今年は立教百年への基本的準備を整える年であるとして、地域社会と国家を整え人心を安定させる「家庭づくり」に努め、「目標をしっかりと定め、歓喜と希望に満ちた世界を皆さまと作ってまいりましょう」と呼びかけた。

式典は来賓祝辞、会歌斉唱の後、一同で万歳三唱し幕を閉じた。第3部「直会」では太鼓の演奏や福銭・餅まきが催され、名物の五色うどんや甘酒、神酒、スープなどもふるまわれ、晴天のもとご霊地は賑わいをみせた。

深田教主 第82回誕生祭

「ご親教」で働き方、感謝できる喜びを説く

円応教

花束を手に参列者の祝意に応える教主夫妻

円応教（深田充啓教主）は2月10日午前10時半から、兵庫県丹波市の本部・本殿で深田充啓教主の「第82回誕生祭」を行った。

はじめに本殿で奉祝演芸を開催。兵庫1・2・3・4教区の担当により、「笑顔で集い、共に言祝ぐ誕生祭」をテーマに子どもたちによるサンバやコーラス、「鬼子母神」の創作舞踊を披露した。会員がそれぞれの役に扮して踊り、会場は大いに盛り上がった。この後、深田教主と静子夫人が登壇した。お祝いの言葉に続き、教主夫妻に花束が贈呈された。

午前11時半からは、深田惠子恵主の主導師の下、「誕生祭・2月例月祭式典」が営まれた。

本部参拝長寿お祝いの記念品贈呈式と教会長任命式の後、信者を代表して赤銅重夫理事長が奉祝の言葉を述べ、深田教主に記念品の目録を贈呈したほか、教会長会、布教師会からも記念品の目録、青年信者代表からは深田教主夫妻に花束が贈呈された。

この後、深田教主が「御親教」。経典の72項を引いて、「心を込めて働くとは、一生懸命相手を見て働かせていただくことです」と働き方について説明した。能率よく働くことで時間を作ることの大切さを述べた上で「本部、教会に数多く参拝し、自覚、反省、懺悔を繰り返し、日々生かされている事に感謝できることが私たちの喜びであり、幸せなのです」と説いた。続いて、深田教主はじめ責任役員、理事らが全信者の無病息災を願い、「福は内」の掛け声とともに「招福豆」をまいた。

午後1時半からは、五法閣1階全体、9階の一部を会場に奉祝パーティーが催された。ラウンジに特設された舞台に、深田惠子恵主らが入場。信者代表の祝辞の後、深田教主が謝辞を述べた。

円応ウインドオーケストラ、ウクレレ部の演奏などに続いて、全員で「ハッピーバースデー」の歌を合唱し、深田教主の誕生日を祝った。最後に全員で「教主様御誕生奉祝歌」を深田教主に捧げた。

節分行事を執行

厄を祓い所願成就願う

鬼は反省、内は感謝、福は実行

各地で春を祝い―

笑顔が健康の源になる

法公会

法公会（榊原光徳会長）は2月3日午前10時から、愛知県知立市の総本山で「節分厄除祈願祭」を執り行った。

聖仏舎利宝塔と教祖殿で、榊原光徳会長を導師に、宣教師と読経を行った後、本殿に移動し、厄除祈願の読経を厳修。榊原会長と宣教師が、信者一人ひとりの名前を読み上げて厄除祈願を行った。

婦人部による御詠歌奉納、会員綱領唱和、昼食などの後、榊原会長が法話に立った。魔を滅して厄を払うという豆まきの意義について説き、心身ともにいつも健やかな状態を保つことの大切さを伝え、「笑顔や笑うことの実践が健康の源になる」と伝えた。

この後、裃姿の来賓や会員代表者が、本殿内の参列者に向かって「福は内」と大きなかけ声を上げて豆をまいた（写真）。

良き変革は平素からの善行次第

真生会

真生会（田中庸仁会長）は2月3日午前10時20分から、岐阜市の総本山真生寺で「星祭り厄除け節分祭」を奉修した。

魔除けの切り火、お祓いの儀に続き、法華経読誦による「ご祈祷」で、企業・団体の事業繁栄、社運隆昌の祈りと、厄年・年男年女・星祭りの衰運に当たる一人ひとりの名前を読み上げ、今年一年間の無病息災、災難除けの祈りを捧げた。

祈祷者全員による仏花奉献、お浄めの鈴祓い、浄めの清酒拝受の後、田中庸仁会長が「ご真教法話」を行った。その中で「今年は変革変動の年であり、物事が大きく変わります。地殻変動も心配されますが、組織の変革、自己改革の年でもあります。良き変革の流れに乗れるかどうかは、平素からの善行という徳次第。今年は大いに世のため人に喜ばれることに励んで下さい」と説いた。

この後、本堂前広場で福豆まきが盛大に催され、特設舞台から田中会長らが豆をまいた（写真）。信徒をはじめ福を求め近隣からも大勢の参拝者があり、賑わいを見せた。

厄難を無難にするための心づくりを

大和教

大和教（保積敬子教祖）は2月3日午前11時と午後5時から、宮城県塩釜市の本庁で「節分祭」を斎行した。

午前の部では、はじめに神殿で保積敬子教祖を祭主に神事を執り行い、祓い詞奏上と大麻祓いの儀の後、保積祭主と祭員が厄年男女の氏名を読み上げ、厄祓いを行った。

来賓と光永輝彦祭典委員長のあいさつに続き、保積教祖があいさつを述べ、節分祭の意義を解説。「節分祭は、人知ではかりきれない厄難を大神様の御力により無事、無難にするものです。そのための心がけ、心づくりに努めてください」と説いた。続いて、「大神様」の「御歌」を紹介した。

この後、修練道場で豆まき神事。節分祭のみ下賜される2体の「金福大黒神」と、さまざまな景品が当たる抽選会に続き、豆まきを役員と来賓、厄年の信者、一般信者ら全員が交代で行った。また保積教祖は福銭をまき、盛況となった（写真）。

神と教祖と一緒に過ごし

天真教

天真教（神出修二教主）は2月4日午前10時から、三重県伊賀市の平安城神殿で「星祭祈願祭」を斎行した。

神出修二教主が天津祝詞の奏上、修祓、開扉を行った後、祈願内容と祈願者の名前を一人ずつ読み上げ、諸願成就を祈った。この後、斎員に合わせて「みかぐら歌」を参列者全員で奉唱。

鈴の音を受け、身を清めた。

「福寿豆まき」では、「鬼は外」「福は内」と唱えながら、参列者に豆をまいた（写真）。

神出教主があいさつに立ち「一年のうち、嬉しいことばかりではないが、神様、ご教祖様と一緒に過ごし、おかげを頂いて下さい」と説いた。

各祈願の代表者が玉串を奉奠した。神出教主を導師に、拍子木に合わせて「天真大真義文」を読誦。

「七福の鈴のお授け」に移り、神出教主が金色の鈴のついた御幣を信徒一人ひとりに授けた。信徒らは低頭して両手を差し出し、清々しい

「形代」用い安全祈願祓い

日本神宮本庁

日本神宮本庁（中島秀典管長）は2月3日午前8時半から、北海道帯広市の帯広明神大社で「節分厄祓祭」を斎行した。

中島秀典管長はじめ神職5人が本殿に上がり、参拝者一人ひとりの名前を丁寧に読み上げ、「形代」を用いて一年の安全祈願祭祓いを行い、「御札」を授与した。

また、厄年の者には「御守り」「破魔矢」を授与。夕方まで参拝者が続き、同日は約2000家族の厄払いを行った。

また、当日以降も参拝者が続き、2月いっぱいは多くの参拝者が来社する。

貧りは徳を削るカンナ

福聚の会

福聚の会（杉浦妙周会長）は2月3日午前10時から、愛知県知立市の本部・大乗山法隆寺で「平成31年節分会」を執り行った。

参列者で満堂となる中、杉浦妙周会長を導師に参拝者一同で読経の後、厄除祈願を行った。

杉浦会長があいさつ。「なぜ、なかなか福がやってこないのでしょう」と参列者に問いかけ、「それは人間の心に巣食う鬼のせいです」「怒り、愚痴、不足、貪（むさぼ）りは、徳を削るカンナです。そのような心の鬼を祓うため、妙法蓮華経の五文字を唱えましょう」と説いた。

この後、教団役員が扮した「赤鬼」が登場。恐くて泣き出す子どももいる中、赤鬼は良い子でいるよう諭（さと）した。

そして教団役員、厄除け祈願者らによる豆まきが行われ、堂内は歓声に包まれた（写真）。

「稔れ、稔る」の掛け声で

大和教団

大和教団（保積秀胤教主）は2月3日午前10時半、仙台市青葉区の大國神社祈祷殿で「節分厄除祭」を斎行した。

祭儀に先立ち、天皇陛下御即位30年の記念映像集が上映された後、保積志胤統理の斎主のもと節分祈祷が厳修された。祭員弓打之儀によって天地四方が清められ、斎主豆打之儀が行われた。保積統理と参列者による玉串拝礼をもって祭儀は滞りなく修められた。祝電披露の後、結びに保積統理が「お言葉」を述べた。

続いて豆まき神事が執行され、保積統理と祭員により舞台から神矢が放たれた後、祭員に続いて「おだいこくさま」の衣装をまとった豆まき所役が登壇。「福は内、福は内、鬼は外、鬼は外、稔れ、稔れ、稔る」という力強い掛け声と太鼓の音が祈祷殿内に大きく鳴り響くなか、威勢よく豆まきが行われた（写真）。

この後、「お楽しみ抽選会」が賑やかに行われた。

法華経のすばらしさつかみ

大慧會教団

大慧會教団（石倉寿一次代会長）は2月3日午前11時半から、大阪府堺市の本殿講堂で「第68回節分祭」を執り行った。

慶白文奏上、大乗経典奉読の後、石倉寿一次代会長が真剣による「お究呪の法」を行い、病魔、悪魔退散、厄払い、諸願成就を祈願した（写真）。

石倉次代会長が「ご法話」。今年の修行経典である法華経の「如来寿量品第16」「如来神力品第21」を解説し、「法華経の教えのすばらしさをつかみ、仏様のようになりたいと念じることが大切」と説いた。また「節分で節が変わります。新しい気持ちで、明るく元気よく進んでいきましょう」と呼びかけた。

その後、「福寿豆撒の儀」に移り、白衣を着た石倉次代会長らが壇上に整列し、題目を唱えて福豆を祈祷。紙袋に入った福豆を、「南無妙法蓮華経、福は内」の掛け声で堂内に撒いた。

発露懺悔の修行で「鬼は外」

妙智會教団

妙智會教団（宮本惠司法嗣）は2月3日午後1時から、東京・代々木の本部本殿大講堂で「節分追儺式」を挙行した。

宮本惠司法嗣が須弥壇の導師席に着座。玄題三唱に続き、祈願文を奏上した。参列者一同による読経の後、祝電紹介、来賓あいさつと続いた。

この後、宮本法嗣が「ご指導」を行い、宮本ミツ会主が生前、節分追儺式で述べた「私たち心の中に住んでいる鬼を取りなさい」というお言葉を引用し、「もし、悪いことをしてしまったら、口に出して懺悔をする。これが妙智會の修行である。『発露懺悔』です。そして修行の中で福を心に頂戴する。毎日お経を上げながら懺悔をする、それが妙智會の『鬼は外』です」と説いた。

追儺の儀は、宮本法嗣が須弥壇に向かい大きな声で「福は内！福は内！鬼は外！」と福豆を撒いた後、来賓と共に満堂の参列者に向かって力いっぱい福豆をまいた（写真）。

大講堂2階と修行道場にも移動し、参列した会員にあまねく福豆をまくなど、各会場は熱気に包まれた。

大きな声で題目を唱え

晃妙寺

晃妙寺（松本晃芳法主）は2月3日午前11時から、大阪府枚方市の本部本殿で「星祭節分大祭」を斎行した。

団扇太鼓が打ち鳴らされる中、導師の松本晃芳法主と脇導師が入場し、読経供養を行った。松本法主が「九星」で今年の「黒星」などにあたる祈願者一人ひとりの名前を読み上げ、除災招福を祈念し、団扇太鼓に合わせて題目が唱えられた。松本法主は「法話」の中で「嬉しい時、悲しい時は大きな声で笑い、泣くことが大切。心が荒んだら、同じように大きな声でお題目を唱えてください。これは法華経において大切なことです」と説いた（写真）。

この後、信者代表らが参列者に向かって豆を手渡すようにしながらまいた。さらに、くじにより、商品が授与された。

2日午後6時からは、「星祭」が本殿で営まれ、境内の一角でも護摩木が焚かれ、諸願成就を祈願した。

記念大祭への協力・理解への感謝併せて

解脱会

解脱会（岡野英祥法主）は2月3日午後1時から、埼玉県北本市の御霊地・解脱練心館で「節分会」を執り行った。

神前に供えられた福豆の祓い清め、拝礼行事に続き、主催者を代表して西村晴雄常任理事があいさつ。「日頃の、特に昨年（立教90年）の記念大祭でのご協力とご理解にあらためて御礼申し上げる」と述べた。

来賓を代表して現王園孝昭北本市長が祝辞を述べた後、裃をまとった西村常任理事、歳男らによる追儺之儀（豆まき式）が行われ、「福は内」だけを唱える解脱会独特の「三声一声」の掛け声で豆がまかれた（写真）。

2回行われた追儺之儀の合間には獅子舞いの披露、豆まき式後には景品抽選会も催され、会場内は大いに賑わった。

また、正午から行われたチャリティーバザーによる収益金は北本市社会福祉協議会に寄託し、その目録贈呈式も行われた。

修養団捧誠会

修養団捧誠会

修養団捧誠会（出居徳久総裁）は2月3日午後2時から、東京・池袋の本部で「追儺式」を執り行った。

はじめに年男・年女が入場し、礼法を行った。出居徳久総裁が壇上に上がり、「いのりのことば」を奏上し、修祓。玉串奉奠を出居総裁に続き、全国おみな会会長の早山佐和子氏、地元町内会会長、年女・年男らが行った。

出居総裁が「あいさつ」に立ち、年男・年女を迎えた会員のさらなる活躍を祈った。また教団の趣旨に基づく、福を頒（わか）つ追儺式の意義をあらためて説いた。

この後、「福頒（ふくわか）ち」となり、神前に供えられた福豆とみかん、餅が下ろされ、出居総裁の「鬼は反省、内は感謝、福は実行」の掛け声で堂内に撒いた。

感謝忘れず互いの幸せ祈願

天心教

天心教（天元教主）は2月3日午後2時から、大阪府羽曳野市にある古市本庁の神前で「節分星祭大祭」を斎行した。

太鼓の合図で斎主の天元教主と斎員3人が入座し、修祓、身祓祝詞、開扉、献饌、「大祓祝詞」を奏上。天元教主が「猿田彦大神祝詞」を奏上した後、猿田彦大神を模した面をつけ、平伏する参列者に向かって神刀を振るい、除魔招福を願った。

続いて祭員が「神詞」を、天元教主が「節分詞」を奏上した後、玉串奉奠を行った。この後、豆まきとなり、参列者にぜんざいと豆茶が振舞われた。

天元教主が「聖教」に立ち、世の中が豊かになればなるほど、人間は信仰の本質の「感謝の心」を忘れがちであると指摘し、「感謝を忘れず、自分の幸せだけでなく、お互いの幸せを祈願しましょう」と感謝の大切さと護摩祈祷への心構えを説いた。

この後、護摩祈祷に移り、各九星の「星祭御真言」を唱えながら、護摩木を火に投入し諸願成就を祈願した（写真）。

に手渡した（写真）。受け取った福豆などは家族やご縁のある人たちにも分け、福餅の順に参列者一人ひとりを分かち合うこととなる。

心を静め、感じる力を

玉光神社

玉光神社（本山一博宮司）は2月3日午後2時から、東京・井の頭の同神社で「節分祭」を執り行った。

修祓、降神の儀などの後、斎主の本山一博宮司が「歳神とは私たちの命を育む大地の力のこと。この力と一つになるように」と参列者に呼びかけ、祝詞を奏上し、黙想。玉串奉奠などを行い、祭儀を終了した。この後、年男・年女が神前や拝殿はじめ境内各所に豆をまいた（写真）。

本山宮司が「御講話」を行い、豆まきの際に「福は内」しか唱えないことについて、玉光神社の節分祭は厄払いよりも農業がうまくいくようにとの祈年祭的性格が強いと説明。

また、「感じる力」が宗教の基本だと話し、感じる力を高めていけば神の声である「良心の声」が聞こえてくるようになると述べ、感じる力を失わないように「心を静め、心と体をくっつけていく」時間が日々必要だと説いた。

弱者・少数者が分断・孤立する社会―

現代宗教の可能性を問う

国際宗教研究所 公開シンポジウム

国際宗教研究所（島薗進理事長）は2月17日午後1時20分から、上智大学グリーフケア研究所との共催により、東京都千代田区の上智大学で公開シンポジウムを開催した。今回のテーマは「支え合う、はぐくむ、つながる」「むすびつける」という意味があることから、宗教本来のつなぐ力を問うものとなった。

つながりの場として の宗教施設の可能性

趣旨説明の後、4人の宗教者が発表した。弥生神社権禰宜の池田奈津江氏は「宗教的縁とつながりの創出―東日本大震災の被災地から地域の神社へ」をテーマに発表。池田氏は、被災地で僧侶ら他宗教の人々と共にボランティア活動に取り組んだ経験を語った。さらに神奈川県海老名市にある弥生神社において開催している書写会、ワークショップ、宗教・文化講座の活動も紹介。「神社は孤立する人々を他者（外部の人々、自然、神、社会、先人）と結びつける場であり、神職はつながりの形成を助ける存在」と述べた。

天理教麹町大教会会長の久保一元氏は、「天理教の教会としてのあり方―あたたかい家族のようなコミュニティを目指して」をテーマに発表。久保氏は、信者が世代を重ねてきて、教会コミュニティが閉ざされがちになってきている天理教の現状を紹介した。地域に開かれた場所を目指して「こども食堂」を開催し、その結果、「地域社会との接点が生まれ、信者は社会への貢献感を得ている」と述べた。

苦しむ人々に寄り添う宗教者の活動

カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナピスのビスカルド篤子氏は、在留特別許可を求める人々、難民、人身取引被害者、無国籍者、前科があって身寄りのない人など「社会の谷間に置かれた人びと」の支援活動を紹介。国を相手にした裁判や保護活動の多くはうまくいかず、強制送還されるなど、絶望的な状況を赤裸々に語った。一方で前科のある人に言われた「あなたたちは見届ける人たち」という言葉に励まされ、そういった苦難の状況にある人々に「寄り添った活動を行っている」と述べた。

フロアからの質疑を交えながら全体討論が行われた

宗教の力―格差と孤立を越えて

今回の趣旨は、日本社会において弱い立場や少数者の人々が、分断され、孤立する状況の中で、宗教の可能性を考えるというもので、宗教（religion）の語源に「つなぎとめる」という意味があることから、宗教本来のつなぐ力を問うものとなった。

コミュニティ同士の結節点が重要と指摘

午後4時から再開。上智大学教授の芳賀学氏のコメントの後、東京工業大学教授の弓山達也氏の司会で全体討議が行われた。討議では、フロアからの質問を交えながら、宗教者としての自身の信仰と活動との関係、また所属教団と活動の関わりなど、それぞれの立場から思いや課題も語られた。

閉会あいさつに立った国際宗教研究所常務理事の井上順孝氏は、6人を仲介すると世界中の人とつながるというスモール・ワールド理論を紹介。一方で一つひとつのコミュニティは小さいものでしかないことから同士の結節点であり、つないでいくこと。今回のシンポジウムはその意味で大変意義があった」とまとめの言葉を述べた。

シンポに先立ち、午後1時から、第14回国際宗教研究所賞授賞式を開催。本年は、内戦状態の南スーダンでフィールドワークを行い、人々の信仰世界を詳細に描いた橋本栄莉『エ・クウォス―南スーダン、ヌエル社会における予言と受難の民族誌』（九州大学出版会）が受賞した。

最後に浄土宗若手僧侶有志による「ひとさじの会」事務局長の吉水岳彦氏は、「ご縁をむすんで、支えあい、はぐくみあう―仏教の『慈悲』と『支縁』」のテーマで発表。副住職を務める寺が、山谷地区にあった関係もあり、貧しく身寄りのない人々の墓の相談を受けたことが活動のきっかけとなったことを語った。活動はホームレス支援から、「子ども食堂」、在日外国人支援、そして東日本大震災の被災地での活動と広がってきたが、吉水氏は「いろんな人と関わることで何とかなってきた」と述べた。

4氏の発表の後、約30分、登壇者を交えたコーヒーブレイクとなり、情報交換や交流が行われた。

フクシマコミュニティづくり支援プロジェクト―

活動振り返り 将来語る

WCRP日本委 新春学習会

4氏によるパネルディスカッション

世界宗教者平和会議日本委員会（WCRP日本委、植松誠理事長）の特別事業部会「東日本大震災復興タスクフォース」主催による新春学習会「フクシマコミュニティづくりから見えてきた復興の展望」が1月29日午後2時から、東京・杉並の立正佼成会法輪閣で開催された。

東日本大震災復興タスクフォースによる「フクシマコミュニティづくり支援プロジェクト」は、震災や原発事故により地域や家族と分断された福島を支援するために2014（平成26）年10月から開始された。18（平成30）年度で終了するが、これまで1件20万円を上限に5カ年で17期、延べ250団体に計4700万円の支援を実施。現地の地域・世代間のコミュニティ再生に取り組む団体に資金援助を行ってきた。今回の学習会は支援プロジェクトの活動を振り返り、現在の福島の課題や将来を考えるもの。

学習会の基調講演では、同プロジェクトの支援先の選考に携わった福島市わたり病院の医師、斎藤紀氏が活動を振り返った。復興住宅団地の自治会からのプロジェクトへの参加は全団地の42・3%におよび、「被災者の気持ちを支え、被災者目線での多様な支援ができた」と語った。

また、一般財団法人ふくしま百年基金の山﨑庸貴代表理事は、福島のNPO法人の4割が震災後に設立されているが、行政の財政的支援は減少しており、地域の課題に取り組むNPOが減少していくことに警鐘を鳴らした。

山﨑氏は今後もNPOが持続的に活動していくために、市民が寄付を持ち寄りNPOを支え合う「ふくしま百年基金」を設立したことを紹介。基金設立にあたっては、県内全59市町村で100年後の福島を考えるワークショップを開催するなど、地域の声を重視したことを報告した。

パネルディスカッションでは、浜通り法律事務所の三村茂太弁護士がコーディネーターを務め、同タスクフォースの前島宗甫氏（日本キリスト教協議会元総幹事）と、NPO法人・ウィメンズスペースふくしま副代表理事の小倉久美子氏、復興公営住宅「石倉団地」自治会長の本田昇氏が発題した。

原発事故により、避難した子どもが避難先で「脱北者」といじめを受けたケースや、DVや性的被害など女性の被害も報告され、特に子どもや女性、高齢者などに避難生活の負担がかかりやすいことが訴えられた。

本田氏は「若い人と一緒に頑張ろうという人もいるが、放射能がある場所で若者に頑張れとは言えない」との思いを語り、「帰るか帰らないではなく、浪江町とこれからどう関わるかが大事」と胸の内を語った。

【訂 正】 前号4面「仏教に学ぶ経営者の集い開催」記事中2段目の福永正三氏の逝去が「11月27日」とあるのは「11月17日」の誤りにつき、お詫びし訂正いたします。

東京自殺防止センター 開設から20年―

活動の歩みと課題とは

電話相談、面談からSNS活用へ

昨年12月15日、東京都内で「創立20周年記念講演会」を開催した特定非営利活動法人・東京自殺防止センター（森啓一理事長）。20年にわたる自殺防止・啓発活動の歩みと、近年の対応と課題を追ってみた。

東京自殺防止センターは、イギリスのチャド・ヴァラー氏による自殺防止組織「サマリタンズ」、それに賛同して設立された「国際ビフレンダーズ」に影響を受けた西原由記子氏が、1978（昭和53）年、大阪市で「自殺防止センター」を設立したことに始まる。

西原由記子氏と夫の明氏らは1998（平成10）年に上京し、7月から東京自殺防止センターを開設、電話相談活動を開始した。同年は年々増加していた日本の自殺者数が、ついに3万人を超え、大きな社会問題となっていた。

東京自殺防止センターのスタッフは「ビフレンディング＝Be-friend-ing（友達になる）」の基本姿勢のもと、自殺を考えている人の心に寄り添い、感情面での支えを与えることを目的として自殺防止・啓発活動にあたってきた。

当初、電話相談から開始し、翌年から相談受付時間の拡大、相談員のシフト交代制の導入、手紙での相談、人間関係につまずいたり疲れた人たちが語り合う場の「コーヒーハウス」と遺族の集い「エバーグリーン」の開設、また、政府や自治体はじめ民間団体での講演・ワークショップへの講師派遣など、活動の幅を広げてきた。

ディレクターの中山町子氏は「ビフレンディングの基本は変えることなく、ボランティア団体として、今後も広報に努め、センターの存在を多くの皆さんに知っていただくことに努めていきたい」と語る。

新宗連では結成50周年記念事業の一環として2001（平成13）年に開設した「宗教もしもし相談室」に、西原由記子氏が研修講師として関わったことを契機に、今日まで東京自殺防止センターのスタッフが研修に協力。また、西原氏は新宗連が全国で展開した自殺防止学習会（2008～09年）、新宗連青年会のワークショップで講師を務めるなど、つながりは深い。

◆　◇　◆

今年1月18日、警視庁が発表した自殺統計によると、2018（平成30）年の自殺者は2万598人で前年より723人減り、9年連続で減少した。厚生労働省の昨年1月から11月の自殺した1万9030人の分析では、19歳以下が16人増の543人と10代が増加傾向であることが明らかになった。総数は減少傾向とはいえ、楽観視できない状況がある。

継続して催されているワークショップ

スタッフの村明子氏は「今の若い人たちは子どもの頃から〝親に心配をかけてはいけない〟との思いから悩みを表に出さず、友達にも明かさないため、悩みが積み重なり、ついに〝死にたい〟と考えてしまう」と分析する。

若い世代は通常、電話で直接話す習慣がないことから、「センターに電話相談してくる若い人、子どもたちはかなり深刻な状態です。電話をかけてこない、いわば予備軍の人たちはたくさんいると思う」（村氏）という。

東京自殺防止センターでは、3年前に日本のFacebook社、Twitter社と自殺防止・予防パートナー団体となり、若者に向けた発信を開始した。昨年12月15日の「創立20周年記念講演会」は東京都中央区のTwitter Japan社を会場に行うなど協力関係を深めている。Facebookや Twitterなど、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）への対応も「センターとして、課題の一つになってきた」（中山氏）という。

センターが主催するワークショップやイベントに近年、若者の参加が目立ってきた。「自殺について語ることはタブーという昔の風潮は薄れてきた。今の若い人たちに、もっと自殺防止に関心を持っていただく機会にしていきたい」（村氏）と、今後の課題の一端を話してくれた。

〈東京自殺防止センターの歩み〉

1953（昭和28）年
英国の牧師でカウンセラーのチャド・ヴァラー氏が自殺防止組織「サマリタンズ」をロンドンで設立。

1974（昭和49）年
チャド氏の活動に賛同する世界各地の自殺防止センターが国際的組織「国際ビフレンダーズ」を設立。

1978（昭和53）年
1970年から「関西いのちの電話」で活動していた西原由記子氏がサマリタンズの活動を知り、自殺問題に特化した「自殺防止センター」を大阪に設立。チャド氏が来日し、同センターとの協力体制を確立。

1983（昭和58）年
国際ビフレンダーズに加盟。

1998（平成10）年
西原氏ら上京し「東京自殺防止センター」を設立。

1999（平成11）年～2000年（平成12年）
自殺者遺族のつどい「エバーグリーンの集い」開設。
＊2001（平成13）年、新宗連「宗教もしもし相談室」開設。研修講師に西原由記子氏。以降、同相談室の研修を東京自殺防止センターに協力いただく。

2003（平成15）年
「国際ビフレンダーズ世界大会」を東京で開催。

2007（平成19）年
夜間の「コーヒーハウス」を開始。

2008（平成20）年
認定NPO法人として認可される。
10周年記念講演を開催。
9月より自殺予防週間に併せて48時間特別相談を開始。
＊新宗連、自殺防止学習会を翌年まで全国で開催。講師の一人として西原由記子氏が協力。

2009（平成21）年
元日・1月2日に「48時間特別相談」を緊急実施。
＊派遣切りなどによる社会不安への対応。
＊内閣府主催「自殺防止のためのワークショップ」に開催協力を開始。

2010（平成22）年～2012（平成24）年
3月の48時間特別相談にフリーダイヤルを設置。2012年から54時間フリーダイヤル。

2016（平成28）年
Facebook Japan社とTwitter Japan社の自殺防止・予防パートナー団体に。
＊自殺対策基本法、改正。

2018（平成30）年12月
創立20周年記念講演会を開催。

若者の自殺者増は深刻、対応を

映画

あの日のオルガン

幼い命 守るため

疎開保育園の実話描く

1944（昭和19）年、大戦末期の東京。戸越保育所の主任保母の板倉楓は、園児たちを空襲から守るため、集団疎開を模索していた。最初は反発していた親たちも、〝子どもだけでも生き延びて欲しい〟という一心で決意。しかし、ようやく見つかった受け入れ先は埼玉にあるボロボロの荒れ寺だった。

幼い子どもたちとの生活は問題が山積み。それでも彼女らは子どもたちと向き合い、オルガンを奏で、みんなを勇気づけていた。そして1945（同20）年3月10日、米軍の爆撃機が東京を襲来。疎開先にも徐々に戦争の影が迫っていた―。

本作品は、戦時下に53人もの幼い命を救った「疎開保育園」の実話を描いている。食料もなく、誰もが自分のことで精いっぱいだった時代に、子どもたちを守りたいとの一心で突き進み、幾多の困難を前向きに乗り越えてゆく保育士たちの物語である。

©2018「あの日のオルガン」製作委員会

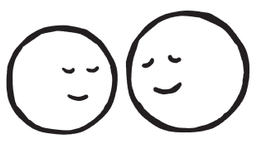
戦争はオルガンに象徴される文化的生活を真っ先に奪っていく。保育士たちはそれに抗い、子どもたちを文化的に育てようと苦心する。そのような中で、疎開先に報じられる大空襲の惨状。それを子どもたちに伝える保育士たち。戦争の生み出す悲劇に直面した人々の心の動き、表情などが丁寧に描かれ、自身も戦争被害者である保育士たちの悲哀や怒りが伝わってくる。

原作は久保つぎこの『あの日のオルガン 疎開保育園物語』であるが、この実話は『ガラスのうさぎ』の作者である高木敏子による絵本『けんちゃんとトシせんせい』など、これまでもメディア化されており、人々の心を動かしてきた。

今回の実写化にあたっては、板倉楓役の戸田恵梨香、野々宮光枝役の大原櫻子がW主演を務めるほか、夏川結衣、田中直樹、橋爪功らが脇を固める。豪華な俳優陣も見どころの一つといえる。

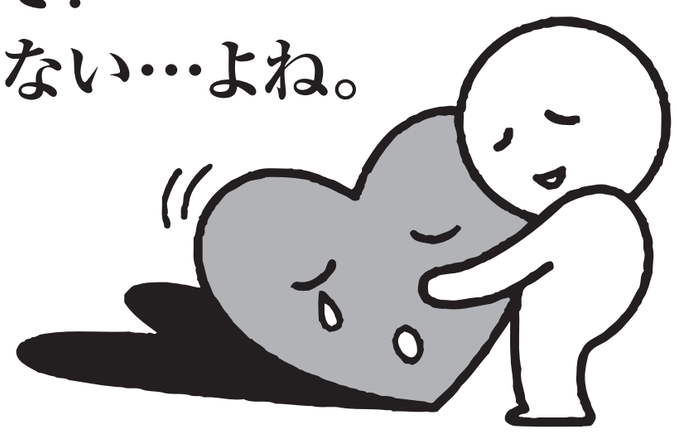
現在新宿ピカデリーはじめ、全国で上映中。上映劇場情報は公式ホームページhttps://www.anohi-organ.com/を参照。（亮）

ひとりで悩まず電話して！
ホントにつらい時って誰にもいえない…よね。



●東京自殺防止センターは国際ビフレンダーズの一員です。
●私たちは国際ビフレンダーズ憲章に沿って活動しています。

●必要に応じて面接をしています。
●手紙でのご相談にも応じています。
●秘密は守られます。
●相談は無料です（通話料はかかります）。
●金銭的な援助はできません。
●医療・法律・教育関係の助言や指導は、専門家にお願いします。
●特定の思想・宗教・政党などとは一切関係ありません。



NPO法人　国際ビフレンダーズ
東京自殺防止センター
03-5286-9090
年中無休、夜8時から翌朝5時30分まで
火曜は夕方5時から翌日2時30分まで
木曜は夜8時から翌日2時30分まで
〒169-0072　東京都新宿区大久保3-10-1 日本基督教団シロアム教会内
事務局電話番号　03-3207-5040（FAX 03-3207-5098）

●全国にある他の自殺防止センター
国際ビフレンダーズ 大阪自殺防止センター
06-6260-4343　毎週金曜、午後1時から日曜、午後10時まで
国際ビフレンダーズ 宮崎自殺防止センター
0985-77-9090　毎週日曜・月曜・水曜・金曜、午後8時から午後11時まで
国際ビフレンダーズ 岩手自殺防止センター
019-621-9090　毎週土曜、午後8時から午前0時まで
国際ビフレンダーズ あいち自殺防止センター
052-870-9090　毎週金曜、午後8時から11時まで